



九工大コンピュータネットワークの現状 — センター長退任の挨拶に代えて —

柏木 浩¹

センター長をどうにか2期4年間勤め、今年の3月末に後任の岡田先生に引き継ぎを行った。退任にあたって私の個人的感想を述べるよりは、情報科学センターの活動を理解していただくために客観的なデータを示したい。私は平成8年度の総括評価委員会のメンバーとして、「事務・広報・会議のためのコンピュータネットワーク利用の調査」を行った。詳しくは委員会の中間報告書に掲載されているが、この小文では報告書のデータに基づいて九工大のコンピュータネットワークの現状の要点を紹介する。

戸畑と飯塚のキャンパスのコンピュータの台数はほぼ同数でそれぞれ2000台を超えている。飯塚キャンパスの場合は学生まで含めて1人1台に近づいている。ネットワークについては、両キャンパスのほぼ全域に幹線の光LANと支線のイーサネットが張り巡らされ、ほとんどの建物で接続可能な状況になっている。キャンパス間の回線については、九工大-九大は1.5Mbps、戸畑-飯塚間は6Mbpsであり、数年前の10倍程の通信容量になっている。大学間の衛星による授業交換も始められたが、受信された映像はキャンパス間の回線を通じて戸畑に送られ飯塚と同程度の画質で見ることができる。

事務、会議などのためのコンピュータネットワークの利用について、全職員を対象とする無記名アンケートを行った結果、回答率はほぼ60%であった。計算機、ワープロなどをほぼ毎日使っている人の割合は各部局・職種とも回答者の70%以上である。大半の職員にとって計算機利用が日常化していることを示している。一部の部局では100%の人が毎日計算機を使っている。電子メールについては利用者が100%に近い部局から70%以下のところまでいろいろである。WWW (World Wide Web) の利用は一部の部局で構成員の60%を超えている。ネットワークを用いて会議を行っているのは、学生部職員40%、各種センター教官36%、情報工学部教官28%などである。

上記のような水準はまだまだ充分なものではないが、九工大のネットワークがかなり整備され、その基盤の上にコンピュータの利用が急速に普及しつつあることを示している。

ネットワークのみならず教育研究用計算機システムの導入など、種々の基盤の整備は多くの人達の努力の賜であることをあらためて指摘しておきたい。情報科学センターの教官と技官の技術水準と仕事への熱意は大変高い。連日の徹夜を辞さない仕事ぶりは賞賛に値する。事務部職員の協力も多方面にわたっている。予算の獲得、物品の購入、施設整備など関わっている職員の数も多数である。その他に、両学部教官により、ボランティアという言葉ではふさわしくないほどの協力が行われている。例えば、衛星通信シス

¹情報工学部 生物化学システム工学科, kashi@bse.kyutech.ac.jp

挨拶

テムの導入と運用開始は主に学部教官の働きで達成された。在任中の御協力の数々を上記の方々に心から感謝したい。